

地域活動者・団体グループインタビュー調査の実施報告

1 グループインタビューの概要

(1) 調査目的

地域支援活動やボランティア活動をされている方を対象としたグループインタビュー調査を実施し、地域ごとの課題を把握し、住民が主体的に地域生活課題に取り組める環境整備のための方向性の検討に向けた基礎資料とするため。

(2) 調査対象

子ども・子育て、障害者、高齢者、保健・医療、外国人など、各分野において地域支援活動などを行っている NPO 法人やボランティア団体、町会・自治会、民生・児童委員など

活動地域	協力団体
京橋	○銀座育成婦人会 ○八丁堀元気ひろば（高齢者通いの場） ○京橋地域民生・児童委員協議会 ○土曜日日本語教室 ○NPO 法人リーブ・ウィズ・ドリーム ○社会福祉法人手をつなぐ育成会（中央区立レインボーハウス明石）
日本橋	○日本橋七の部連合町会 ○日本橋サロン（高齢者通いの場） ○日本橋地域民生・児童委員協議会 ○日曜にほんごクラブ
月島	○豊海町会 ○にこにこ食堂 ○月島地域民生・児童委員協議会 ○にこにこ日本語 ○社会福祉法人ひかりの子（月島聖ルカ保育園） ○勝どきダイルムこころ（高齢者通いの場）
中央区全域	○一般社団法人セルフケア・ネットワーク ○傾聴ボランティアグループ うさぎの会 ○家で死ねるまちづくり はじめの一步の会

(3) 調査方法

グループインタビュー

(4) 調査時期

令和元年7月19日、23日、24日

(5) 調査項目

- ・ 地域の特徴だと思うこと
- ・ 地域の強みとして感じていること、また、課題として感じていること
- ・ 強みを生かすために、また、課題を解決するためにできることや必要なこと
- ・ 個人や団体としての取り組み、地域住民や相談機関等と連携して取り組んでいること、それについてうまくいっていることや困っていること

2 グループインタビューの結果（主な意見）

（1）京橋地域

地域の特徴だと思うこと
<ul style="list-style-type: none">・交通の便がよく、他の地域から転入してくる人が多い。・湊町にタワーマンションが建設されるなど、マンション居住者が多い。・共働き世帯が増えている。
地域の強みとして感じていること、できること
<ul style="list-style-type: none">・家族的なつながりがあり、盆踊りなどの町会活動が残っている。・新住民との交流は課題だが、町会が核となり新住民を比較的取り込むことができている。・下町のよさがあり、転入者、新しい住民も受け入れる、排除しない力がある。・小学校の行事にPTAと町会と一緒に参加している。・住民がまちを愛しており、一人ひとりが自分ごととして、まちがどうすればよくなるのか考えている。
地域の課題として感じていること、必要なこと
<ul style="list-style-type: none">・マンション居住者が多く、顔の見える付き合いが難しい。・町会の担い手が高齢化している。・イベントなどを実施すると若い人も集まってくるが、イベントに参加するだけで、地域のために活動しようという気持ちを持つ人は少ない。・転入者やマンション居住者へ町会加入を促すため、辛抱強く声かけを行っている。・高齢者向けのサロンは多いが、子育て世代の人が気軽に立ち寄り情報交換できるサロンが少ない。幅広い年齢の母親たちが集まれる場があるとよいのではないか。・対象者を限定せず、子どもから高齢者まで一緒に交流できるような場が増えるとよい。・寂しい思いをしている外国人は多い。・外国人にとって、日本語教室は言葉を教わると同時に生活を教わることにもつながっている。・宗教によっては食べられないものがある。宗教食についての理解が深まるとよい。・地域のために役に立ちたいと思っても、仕組みがなくあきらめている外国人もいる。地域活動に参加できる仕組みがあるとよい。・共働き世帯が増えているが、「女性は子育て」という雰囲気をもたない。共働きの母親が働き続けられるようにするための支援が必要である。
個人や団体としての取組、地域住民や相談機関と連携した取組の中でうまくいっていること、困っていること
<ul style="list-style-type: none">・地域で活動している団体同士で交流できるお茶会のような場があると、情報交換やネットワーク化が図れるのではないかと。・団体として横のつながりを持ちたいと思っているが、区役所内も横につながってもらえると活動しやすい。・町会や地域の方と連携して活動したいと思っているが、町会や商店街との接点がなく繋がれていない。・活動したいときに、行政のどこに相談をしたらよいのか分からない。横の連携をしてほしい。・障害者は困りごとを抱えていても、自分からはあまり話さないように感じる。気軽に話せる場や身近な地域で支える環境があればよいと思う。

(2) 日本橋地域

地域の特徴だと思うこと
<ul style="list-style-type: none">・ 会社が多く、ホテル、マンションも増えている。・ 外国人や40～50代の単身者が多いと感じる。・ 子どもが増えている。以前は子どもが外で遊んでいる姿を見かけなかったが最近見かけるようになった。・ 子ども、高齢者、障害者、外国人など多様性のあるまちだと思う。
地域の強みとして感じていること、できること
<ul style="list-style-type: none">・ 昔ながらの人のつながりが強く、顔なじみが多い。・ 地域に馴染みのある人が、通いの場を知らない人にも声をかけあって参加を促してくれている。・ 外国人にとってやさしいまちであると感じる。
地域の課題として感じていること、必要なこと
<ul style="list-style-type: none">・ 町会連合会が高齢化している。・ 地域に若手の担い手が少ない。・ 昔からの住民と新しい住民が馴染んでいないと感じる。・ 盆踊りや防災訓練、防災活動などを行っているが、近隣から「うるさい」と苦情が来ることがある。地域活動への理解が必要である。・ 新しい住民は地域活動の場に来ることが少なく、地域に馴染むきっかけがない。・ 地域や行政との関わり、支援を必要としていない住民もいる。・ 潜在的な需要は多いと思うが、本当に支援が必要な人の情報が得られない。・ 外国人と地域との接点を感じられない。・ 外国人は、日常生活にさまざまな不安を抱いているが、日本語教室のボランティアとしては、個々の生活支援までは踏み込めない。身近に相談できる場があるとよい。・ 子ども食堂が少ない。
個人や団体としての取組、地域住民や相談機関と連携した取組の中でうまくいっていること、困っていること
<ul style="list-style-type: none">・ ボランティアスタッフの確保や資金面で運営に苦労している。・ 地域での活動を多くの人に知ってもらい、参加してもらえるような取組、周知が必要である。・ 企業で働く障害のある方を対象とした懇親会で傾聴ボランティアをしている。障害のある方同士で情報交換したり、お互いにエネルギーをもらえるような場になっており、このような場が増やせたらよいと思う・ 活動を後押しするような行政の支援も必要だと思う。

(3) 月島地域

地域の特徴だと思うこと
<ul style="list-style-type: none">・急激に人口が増えている。・区外から転入してくる人が多く、長く住んでいる人との付き合いが変わってきた。・高齢夫婦の世帯や一人暮らし世帯が多く感じる。・子どもが増えている。・外国人が多く、コンビニや英語で対応してくれる病院もあり、外国人にとって住みやすいまちだと思う。
地域の強みとして感じていること、できること
<ul style="list-style-type: none">・町会がしっかりしており、地域の保育園や幼稚園などに声かけをして地域活動に参加する機会をつくってくれている。・敬老館やシニアセンターなどの施設が充実しており、利用者が施設を選べるのが強みである。高齢者が一歩外に踏み出すとさまざまな施設があり、楽しめる。・下町的な感覚でお節介を焼く人が多い。地域の中で、いけないことはいけないと注意することができる。
地域の課題として感じていること、必要なこと
<ul style="list-style-type: none">・盆踊りに力を入れているが、町会の高齢化や人手不足により、やぐらを立てるのも大変な状況になってきており、担い手の確保が必要である。・区民館などを使って健康体操などを行っているが、参加者は少ない。声かけをしても限られた人しか来ないため、参加を促す取組が必要。・孤独死などを防ぐためには、地域のつながり、ご近所づきあいが大切であるが、内気で活動に入って来ない人や声をあげない人にどのような支援ができるのかわからない。・人口は増えているが、人の関わりが育っていないと感じる。マンションの鍵を閉めたら外の世界とつながりのない人が多い。・スムーズに子育てできない親が子どもにあたってしまったり、シングルマザーや夫が単身赴任などの理由により一人で子育てをしている人もいる。地域のさりげないサポートで楽になるのではないかと。・外国人はゴミ出しのルールなども分からない人が多く、生活面での支援が必要である。
個人や団体としての取組、地域住民や相談機関と連携した取組の中でうまくいっていること、困っていること
<ul style="list-style-type: none">・子ども食堂に通ってくる子どもの中には孤食や貧困などの問題を抱えているケースもあるが、見た目では分からないことも多い。子どもたちへ食事を提供し、何気ない会話をする中でそういった問題が見えてきた場合は区の関係機関へつないでいる。日頃から社会福祉協議会や子ども家庭支援センター等と連携しながら活動しているため速やかにつなぐことができる。・区民館などで活動しているが、確実に予約できるとは限らず、活動場所の確保が課題である。・さまざまな活動してみたいと思っているが、場所の確保や資金面で踏み出せない。補助金など活動を支援する体制がさらに充実するとよい。

(4) 中央区全域

地域の課題として感じていること、必要なこと

- ・中央区は基盤整備がしっかりとされており、行政サービスに恵まれているが、必要な情報が全ての区民に届いているとはいえない。
- ・さまざまな悩みを抱える人たちが安心して交流できる場、何でも話せる場ができればよい。
- ・活動をしたいと思っても、どのようにはじめてらよいのか分からない、場所がないなどの課題に直面する。活動できる場がもっと増えるとよい。
- ・見守り活動として自宅を訪問したいと思っても、個人情報関係でなかなか活動できない。
- ・行政、社会福祉協議会、ボランティア、企業などが語り合い、お互いの役割を理解し支えあうしくみがあるとよい。
- ・交流教育として、障害者と関わる機会を設けている自治体もあるが、中央区はそういう教育の機会が少ない。
- ・店舗や道路などでバリアフリー化が進んでいないところや、バリアフリー化はされているが、全ての障害者が使いやすい施設・設備になっていない場合もある。当事者の意見を取り入れるなどして、さまざまな障害種別に対応した、本当に使いやすい施設・設備にする必要がある。
- ・高齢化とともに障害のある人も増えると思われることから、障害に対する理解を深めるための教育、幼い頃からの教育をより一層充実させる必要がある。

個人や団体としての取組、地域住民や相談機関と連携した取組の中でうまくいっていること、困っていること

- ・ボランティアやNPOなどさまざまな活動団体をどうまとめるのかが課題である。
- ・相談機関と連携して活動していきたい。相談機関それぞれの役割分担や、各相談機関がお互いに支え合うネットワーク化が必要であると思う。区全体ではなく、身近な地域でネットワーク化ができるとよい。